

ほっとらいん
ふろむ
ほんごう

緩和ケア訪問看護ステーション連絡会 「在宅緩和ケア看護師教育プログラム」 開発記念講演会開催

さる11月24日、東京・墨田区の国際
ファッションセンターにて、緩和ケア訪
問看護ステーション連絡会の主催による
「在宅緩和ケア看護師教育プログラム開
発記念講演会」が開催された。

記念講演のテーマは「看護師の力を活
かした在宅緩和ケア」。講師には米国・ハ
ワイの代表的な在宅ホスピス組織「ホス
ピス・ハワイ」代表のケン・ゼリ氏が招
かれた。ゼリ氏は看護師であり、全米ホ
スピス緩和ケア協会の理事も務めている。



ゼリ氏はまず、在宅緩和ケアにおける
専門職の責任について、「患者と家族が
最高の日々を過ごせるよう支援するこ
と」と強調。そのために最も大事な考え
方は、いったん患者さんの家に入ったら
「この訪問が、患者さんにとっては、限り
ある日々を有意義に過ごすための1回き
りのチャンス (only one chance)」と常
に意識することだと述べた。

また、看護師の緩和ケアチームにおけ
る役割として、「患者のトータルな痛み
をアセスメントし、エビデンスに基づき
最新の薬剤を用いて疼痛緩和を行なうこ
と」や、「患者・家族と他職種との間で、
素晴らしい通訳になること」などをあげ
た。そして、最高のケアを提供するため
に最も重要なのは「傾聴」であるとし、会
場の参加者同士での傾聴エクササイズも
行なわれた。

今回の講演会は、緩和ケア訪問看護ス
テーション連絡会による「在宅緩和ケア
看護師教育プログラム」の開発を記念し
て行なわれたもの。講演終了後には、
2013年2月に開始予定の同教育プロ
グラム案について、公開コンサルテー
ションも開催。同連絡会の渡邊美也子会



ケン・ゼリ (Kenneth Zeri) 氏

長が、教育プログラム開発までの研究過
程やプログラムの枠組みを紹介し、その
後にゼリ氏からのコンサルテーションも
含めた意見交換が行なわれた。

今回開発された教育プログラムは、在
宅緩和ケアができる看護師の育成を目的
としており、「講義」と「実習」で構成さ
れる。とくに「現場」で実践力を身に付
けることを重視しているため、在宅緩和
ケアを専門に行なう訪問看護ステーショ
ンでの臨地実習がメインとなっている。
同連絡会では、これから在宅緩和ケア
をめざす看護師や、さらなるスキルアップ
を望む訪問看護師の受講を呼びかけて
いる。

在宅緩和ケア看護師 教育プログラム

募集期限 1月15日 / 東京ほか

募集期限 1月15日 (火)

【講義】2月9日 (土)・10日 (日)

【実習】2月18日 (月)・22日 (金)

※実習受講者は全日程に参加のこと
場所

【講義】聖路加看護大学2号館看護実
践開発研究センター (東京都中央区)

【実習】各地の緩和ケア訪問看護ステ
ーション (北海道札幌市、東京都小平市、
東京都墨田区、静岡県浜松市、奈良県

奈良市、愛媛県松山市)
定員：講義・実習20名、講義のみ30名

受講料：無料 (交通費と宿泊費は自己
負担)

申込方法：氏名、所属、電話番号、メ
ールアドレス、実習希望場所、受講動機

を明記のうえ、メールまたはFAXに
て

※申込者には講義・実習の詳細を送付
※参加の可否は1月25日までに通知

緩和ケア訪問看護ステーション連
絡会事務局

✉ kango@pallium.co.jp

☎ 03-5669-18310

☎ 03-5669-18310
※この教育プログラムは、2012年度厚生労働
科学研究費 堀田班の助成を受けて実施され
ます。

受講者
募集